

# 変額年金保険販売のための商品特性分析

アカラックス㈱は九月十二日、東京・千代田区のANJインターナショナル東京本部で第四回アカラックスセミナー「変額年金保険販売のための商品特性分析(生保経営の視点から)」を開催した。このセミナーには、生保営業に携わる代理店や保険会社の社員約五〇名が参加。講師の同社代表取締役の坂本嘉輝氏により、変額年金保険の保険関係費用の不透明性などの問題点などがアクチュアリー視点から解説された。

## 運用失敗時の最低死亡保証は？

### 高くなる保険収支悪化のリスク

まず、変額年金保険商 ラチェット型は、保険品としての特性の一つとして、普通死亡保障と災害死亡保障の死亡保障を付加している。また、死亡保障については、払込保険料相当額の最低死亡保証を付加しているケースや、ラチェットと呼ばれる運用実績がよければ死亡保障の最低保証水準を引き上げ、以降の運用実績にかかわらず保障額は下がらないものがある。

まず、変額年金保険商 ラチェット型は、保険費を差し引いた額が元本以上となり、危険保険金は発生しない。しかし、運用が失敗し、死亡保険金のファンドに不足が生じると、危険保険金が発生する。その場合のコストは、死亡率×危険保険金となるが、実際お客さまから対価としてもらっているのは、ファンド×一定率となっており、アンバランスな収支となっている。ラチェット型の場合、死亡保証額が高い水準を維持することになり、運用が悪化した場合の問題は拡大する。

この対価を計算する一定率は、死亡率、性別、年齢、健康状態などにかかわらず、一定である。すなわち、死亡リスクに見合うだけの対価を取っていない。つまり、高齢者にメリットの多い商品計上などで対応してい

投資先ファンドの選定時にも、リスクが生じる。死亡保障という最低保証があるので、ハイリスクの商品を選択する可能性が高く、その結果、運用悪化時の保険収支悪化のリスクは高くなる。

さらに、米国の現状として、景気の悪化に伴う変額年金保険の保険収支の悪化による再保険料の高騰の問題がある。現在、米国では再保険会社の要求する対価と保険会社の支払うことのできるコストがミスマッチを起し、再保険を引き受ける

会社がいない状態になっていく。

また、契約関係費用の問題点としては、変額年金保険では保険関係費用として、死亡保障コストと事業費を合算してファンドの一定率で取っているが、事業費とファンド

の運用実績には、相關関係はないはずでミスマッチが起きている。また、資産運用コストは表に出しておらず不透明だし、販売チャネルと投資信託を運用する会社が同一の場合、フィーの二重取りの問題も生じている。

契約者に対しての説明の部分でも問題がある。例えば解約返戻金の例示では、諸経費が控除される前の数値か、控除後の数値か、各社で対応がバラバラだ。また、投資関係費用はファンドによっても異なるが、契約関係費用は、死亡リスクにかかわらずどのファンドでも同率である点などは、説明が非常に難しい。

アメリカでは、バブル期に大変な人気商品となったが、バブルがはじけて大変になった。日本でも販売チャネルが多様化し、市場規模が拡大してきているが、ファンドのパフォーマンスが悪化した場合、変額年金保険の仕組みには、潜在的な問題点が多々ある。業界全体で問題解決に取り組んで消費者に信頼される商品に育てて、市場を拡大していければと願っている。

なお、アカラックスでは今後次の日程でセミナー開催を予定している。セミナー参加に関する問い合わせは〇三二五二〇九一二五一まで。

## のしかかる契約時のコスト負担

### 外資生保は本国からの資本投入等に対応

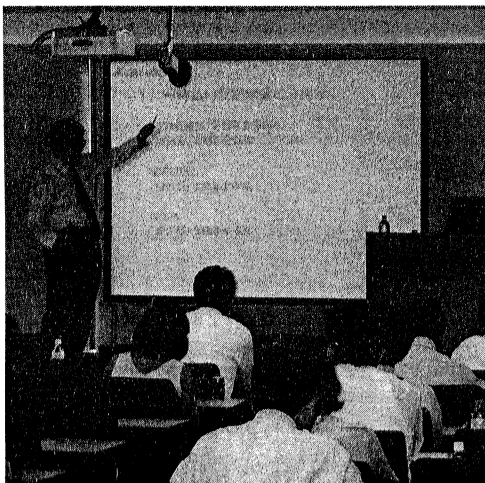
新契約獲得時の費用負担も保険会社にとっては大きな問題となっている。現在、新契約コストは一時払い保険料の五％程度だが、これは保険会社が負担している。つまり、変額年金保険を販売するほどコスト負担は重くなる。現在、外資系の各保険会社は本国から資本投入したり、財務再保険による調達をしたり、一三条による繰延資産計上などで対応してい

る。新契約費用を確実に取れるようになればこれらの諸問題を小さくすることができるといえる。

外資系は三団体が責任準備金の積み立て方法の変更を提案し、関係各方面へ提案している。この提案はアクチュアリー協会でも検討中だが、その結果を注目している。

●第六回  
十一月七日(金)  
「アカウント型商品の仕組み、そのメリットとデメリット」

●第七回  
十二月十二日(金)  
「変額保険の仕組み、そのメリットとデメリット」



約50名が参加したセミナー

## 生保経営の視点から問題点を探る

約50名が参加したセミナー

約50名が参加したセミナー

約50名が参加したセミナー

約50名が参加したセミナー

約50名が参加したセミナー

約50名が参加したセミナー

約50名が参加したセミナー